

# BBLセミナー プレゼンテーション資料

2011年7月22日

「平成23年版通商白書 - 震災を越え、グローバルな  
経済的ネットワークの再生強化に向けて」

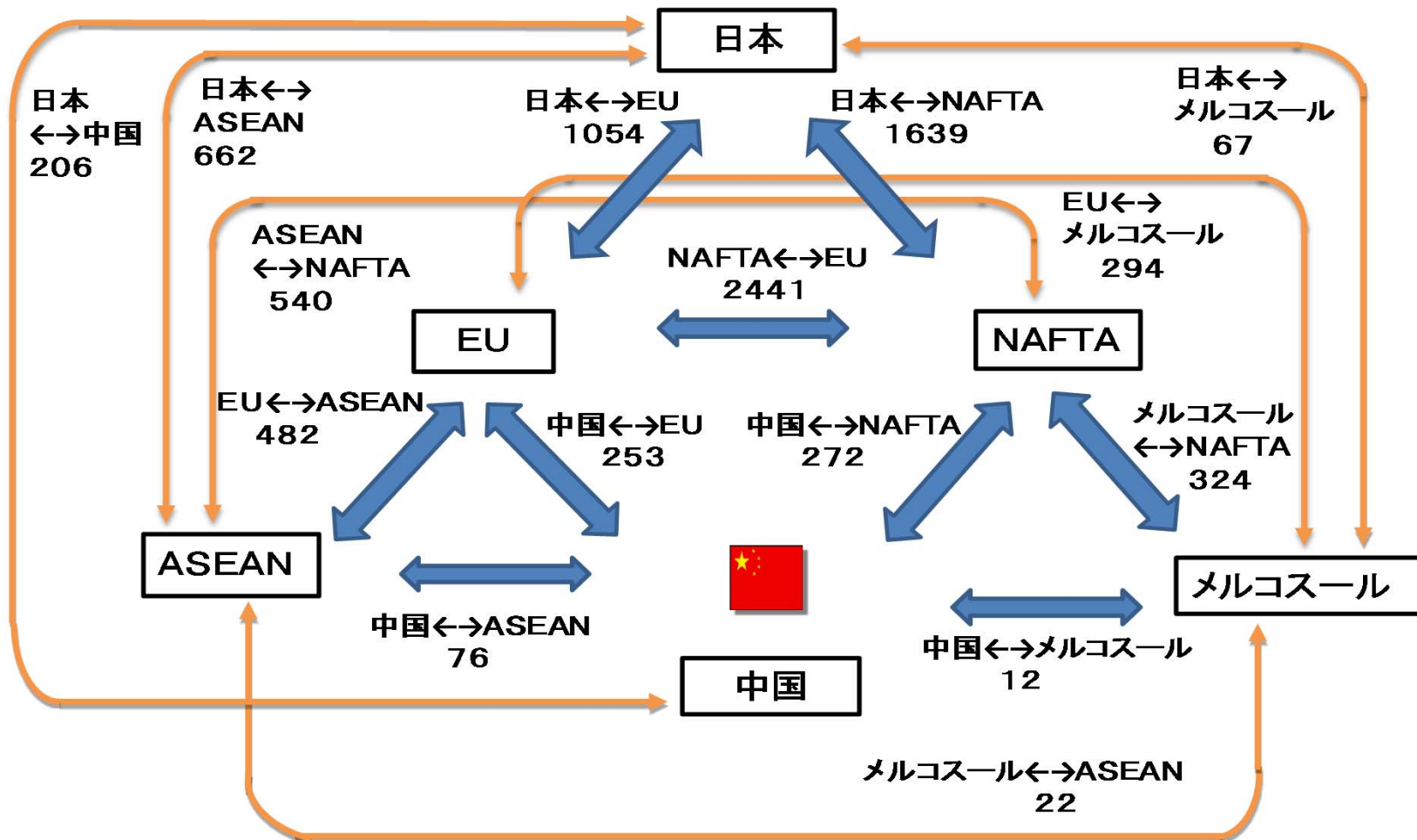
石塚康志

# 世界貿易の6極構造の変化

～この20年で何が変化したのか、そして  
震災により何が変化するのか～  
平成23年版通商白書 第2章第1節より

# 1990年の6極間の貿易

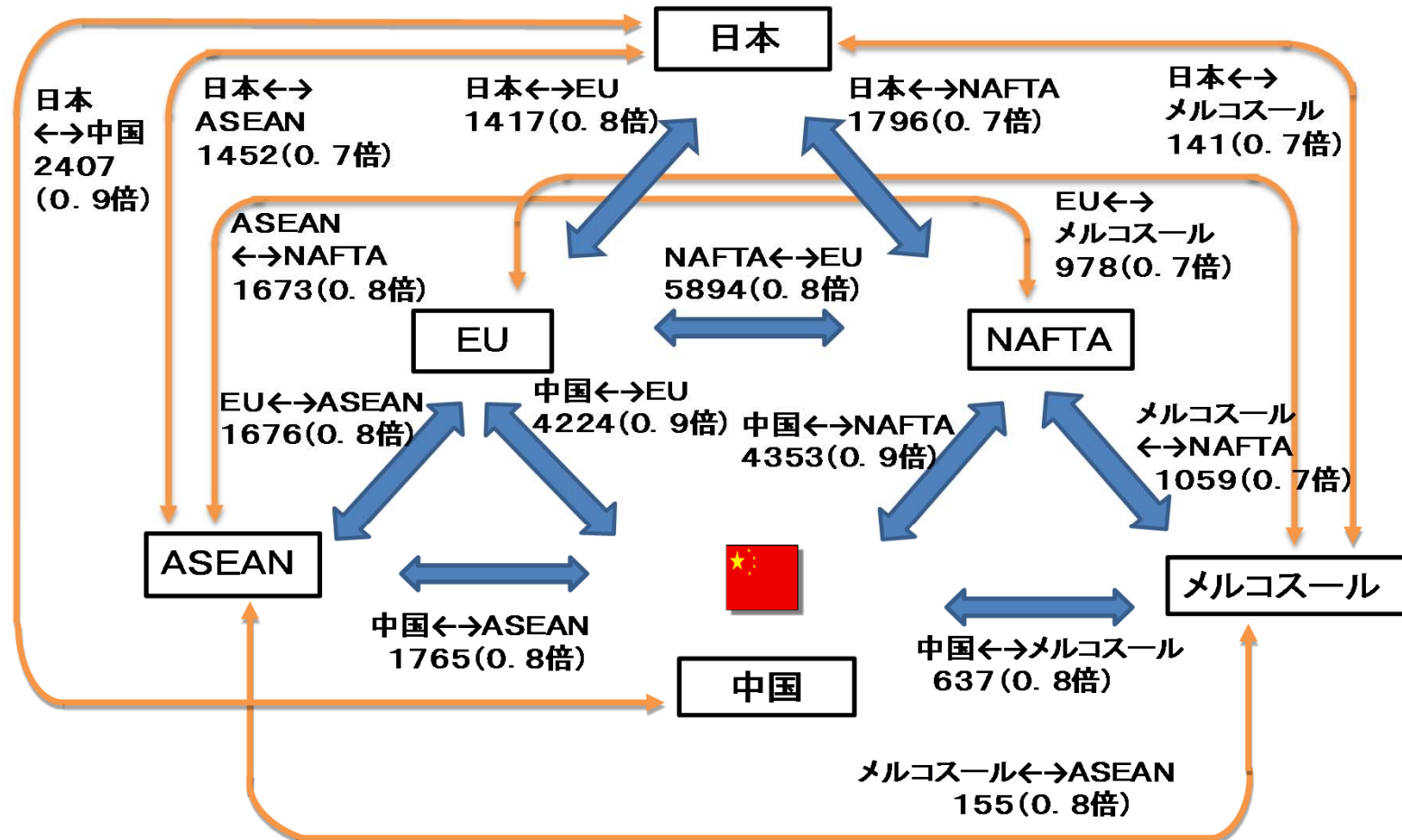
- NAFTA/EUが基軸となる通商関係



注) 数値は、地域間の輸入額と輸出額の合計値。単位は、億ドル。

# 2009年の6極間の貿易

- リーマンショック後、中国との貿易関係の縮小幅は相対的に小さい



注) 数値は1990年と同じ、カッコ内は、2008年の数値からの減少率

# 6極の貿易取引とGDPの関係

- 中国を取引相手とする貿易は、GDP成長率よりも大きく増大していた

地域		GDP倍率 (A、倍)	貿易額倍率 (B、倍)	「存在感」 指標(B/A)	グループ
中国	メルコスール	40.4	52.8	1.31	上位 グループ
EU	中国	29.8	16.7	0.56	
日本	中国	21.4	11.7	0.55	
メルコスール	ASEAN	13.2	7.0	0.53	
NAFTA	中国	31.3	16.0	0.51	
EU	メルコスール	7.4	3.3	0.45	
中国	ASEAN	53.2	23.3	0.44	
NAFTA	EU	5.7	2.4	0.42	下位 グループ
NAFTA	メルコスール	7.8	3.3	0.42	
日本	メルコスール	5.3	2.1	0.40	
EU	ASEAN	9.7	3.5	0.36	
EU	日本	3.9	1.3	0.34	
日本	ASEAN	7.0	2.2	0.32	
NAFTA	ASEAN	10.2	3.1	0.30	
NAFTA	日本	4.1	1.1	0.27	

備考：GDP倍率は2か国のGDPの積の倍率。

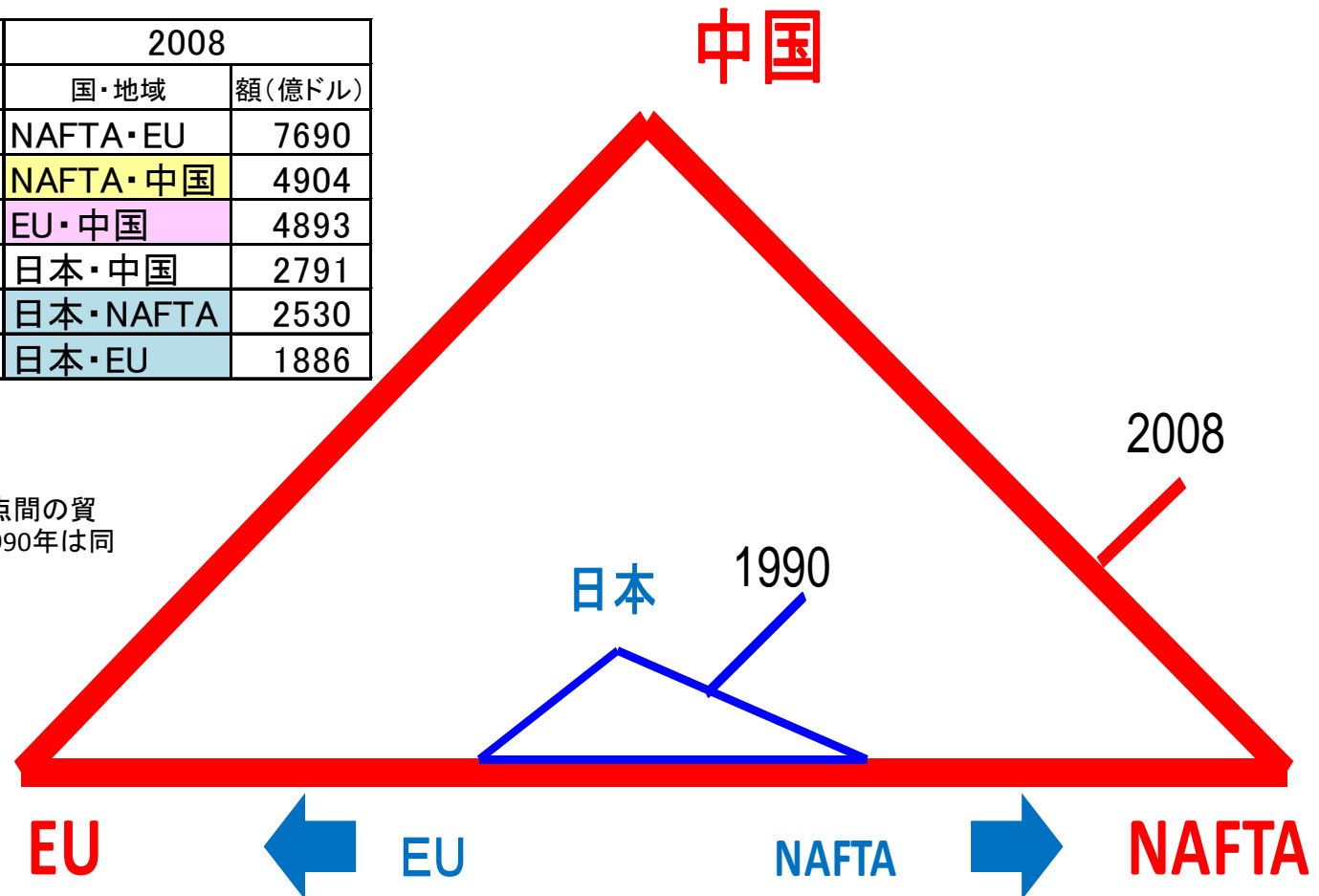
資料：IMF「World Economic Outlook Oct.2010」、RIETI「RIETI-TID2010」から作成。

# 世界貿易の3極構造の変化

- 世界貿易3極構造の変化とは、中国の存在感の増大、日本を頂点とする3角形は描けなくなっている。

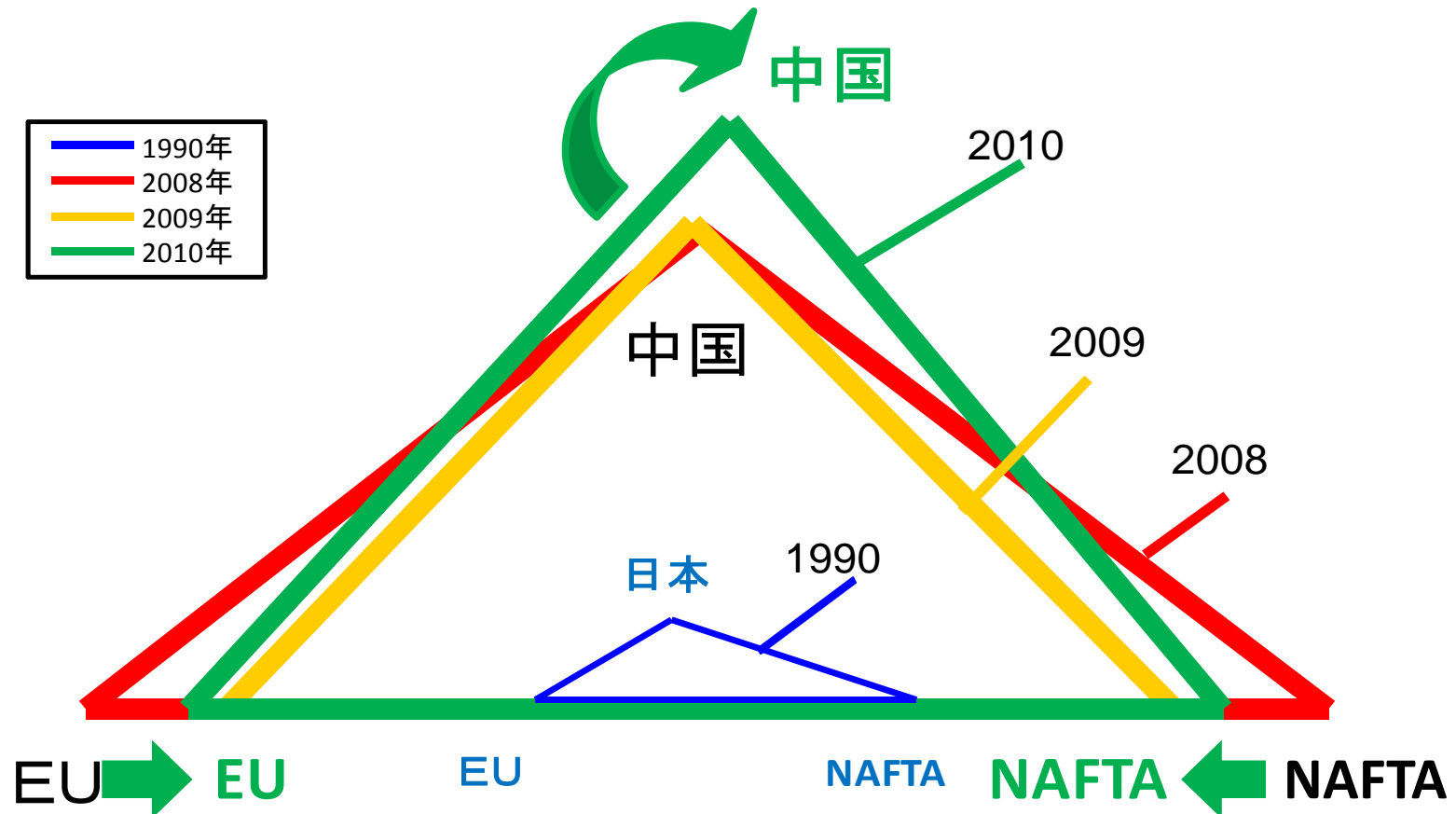
	1990		2008	
	国・地域	額(億ドル)	国・地域	額(億ドル)
1	NAFTA・EU	2441	NAFTA・EU	7690
2	日本・NAFTA	1639	NAFTA・中国	4904
3	日本・EU	1054	EU・中国	4893
4	NAFTA・中国	272	日本・中国	2791
5	EU・中国	253	日本・NAFTA	2530
6	日本・中国	206	日本・EU	1886

注) 右の三角形の辺の長さが、頂点間の貿易額の多寡を表す。2008年と1990年は同じスケールで描画。



# リーマンショック前後の変化

- リーマンショックから回復した2010年の特徴は、欧米間貿易の回復というより、対中国貿易の回復
- その中でも、中国とEUの貿易が拡大



# 中国・ASEANの貿易構成の比較

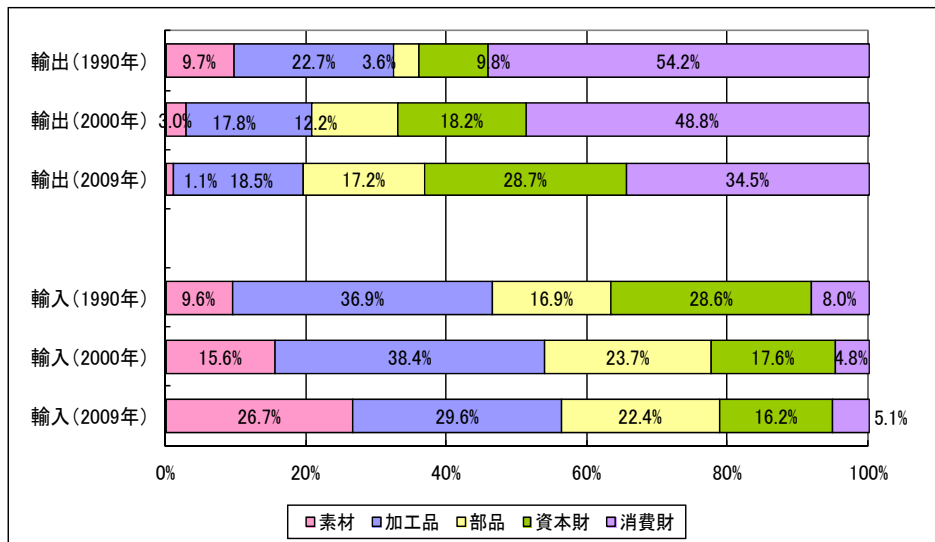
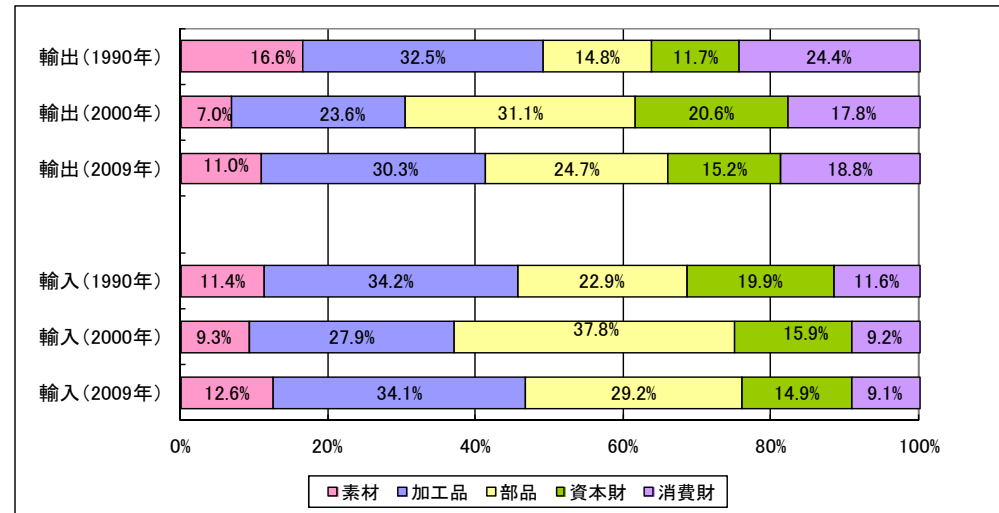
ASEAN の貿易財の構成は、素材・部品・加工品・資本財・消費財と比較的バランスのとれた輸出・輸入構造となっているように見える。



ASEAN 生産の自律化の兆し??

中国

ASEAN



中国の貿易財の構成は、中間財を輸入し、最終需要財を輸出するという組立・輸出型生産構造の性格が表れている。



# 中国の輸出入相手国

- EU 諸国のうち輸出入ともに上位を占め、なおかつ08年から10年の間で輸出入ともにシェアを伸ばしているのはドイツ

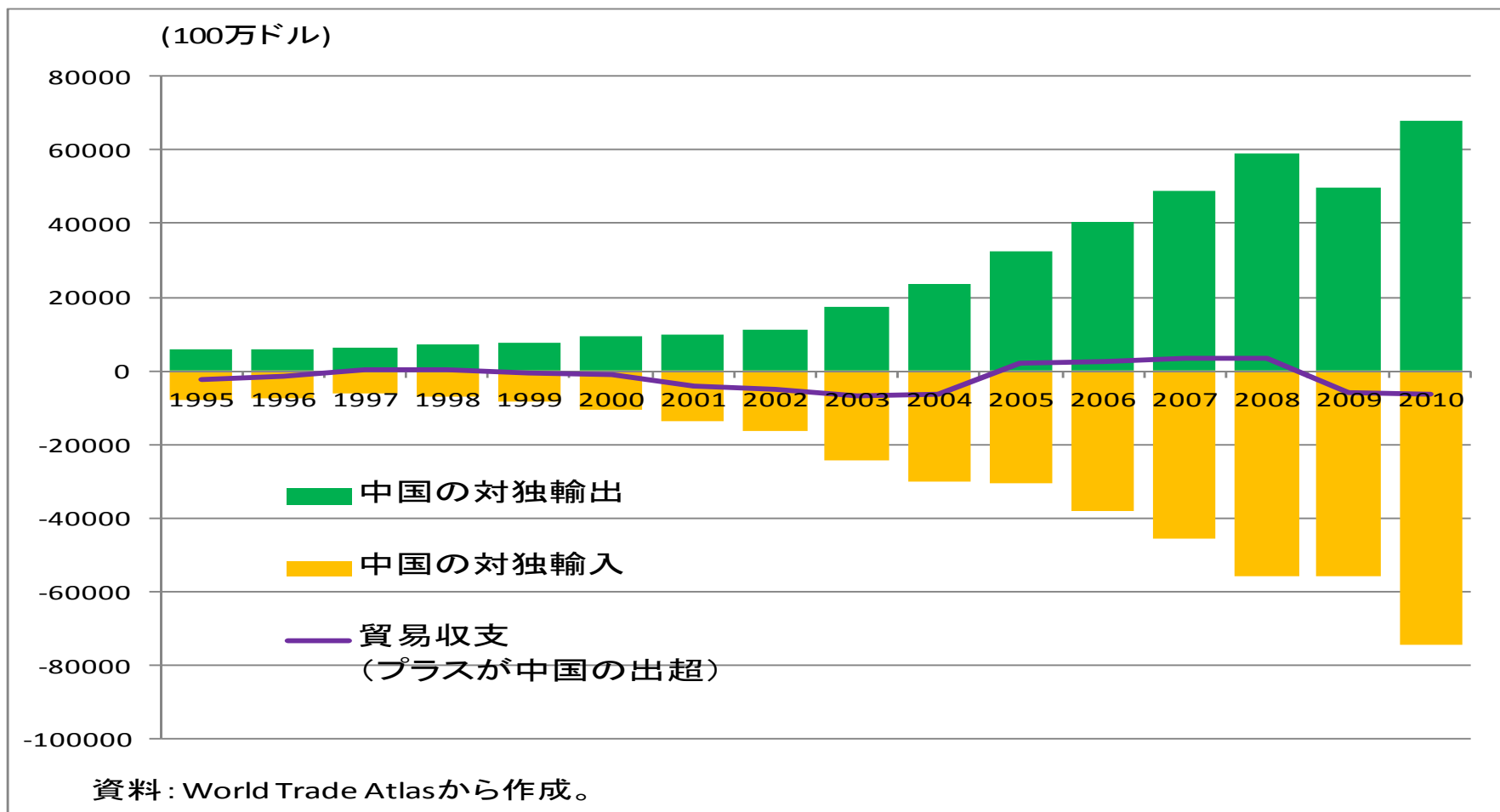
	2008			2009			2010			輸入相手国				
	国・地域	額(100万ドル)	シェア	国・地域	額(100万ドル)	シェア	国・地域	額(100万ドル)	シェア					
	世界計	1131469	100.0%	世界計	1003893	100.0%	世界計	1393909	100.0%					
1	日本	150634	13.3%	日本	130749	13.0%	日本	176304	12.6%					
2	韓国	112154	9.9%	韓国	102125	10.2%	韓国	138023	9.9%					
3	台湾	103325	9.1%	台湾	85706	8.5%	台湾	115645	8.3%					
4	米国	81486	7.2%	米国	77433	7.7%	米国	101310	7.3%					
5	ドイツ	55910	4.9%	ドイツ	55904	5.6%	ドイツ	74378	5.3%					
6	豪州	36284	3.2%	豪州	39175	3.9%	豪州	59698	4.3%					
7	マレーシア	32112	2.8%	マレーシア	32206	3.2%	マレーシア	50375	3.6%					
8	サウジアラビア	31072	2.7%	ブラジル	28311	2.8%	ブラジル	38038	2.7%					
9	ブラジル	29632	2.6%	タイ	24846	2.5%	タイ	33201	2.4%					
10	タイ	25627	2.3%	サウジアラビア	23582	2.3%	サウジアラビア	32862	2.4%					
										2009	2010			
										額(100万ドル)	シェア	国	額(100万ドル)	シェア
										1202047	-	世界計	1578444	-
										220706	18.4%	米国	283184	17.9%
2	香港	190772	13.4%	香港	166109	13.8%	香港	218205	13.8%					
3	日本	116176	8.1%	日本	97209	8.1%	日本	120262	7.6%					
4	韓国	73905	5.2%	韓国	53630	4.5%	韓国	68811	4.4%					
5	ドイツ	59192	4.1%	ドイツ	49932	4.2%	ドイツ	68069	4.3%					
6	オランダ	45921	3.2%	オランダ	36689	3.1%	オランダ	49711	3.1%					
7	英国	36079	2.5%	英国	31267	2.6%	インド	40879	2.6%					
8	ロシア	33011	2.3%	シンガポール	30050	2.5%	英国	38776	2.5%					
9	シンガポール	32325	2.3%	インド	29570	2.5%	シンガポール	32333	2.0%					
10	インド	31516	2.2%	フランス	21445	1.8%	イタリア	31136	2.0%					

資料: World Trade Atlasから作成。

資料: World Trade Atlasから作成。

# 中国とドイツの貿易関係の深化

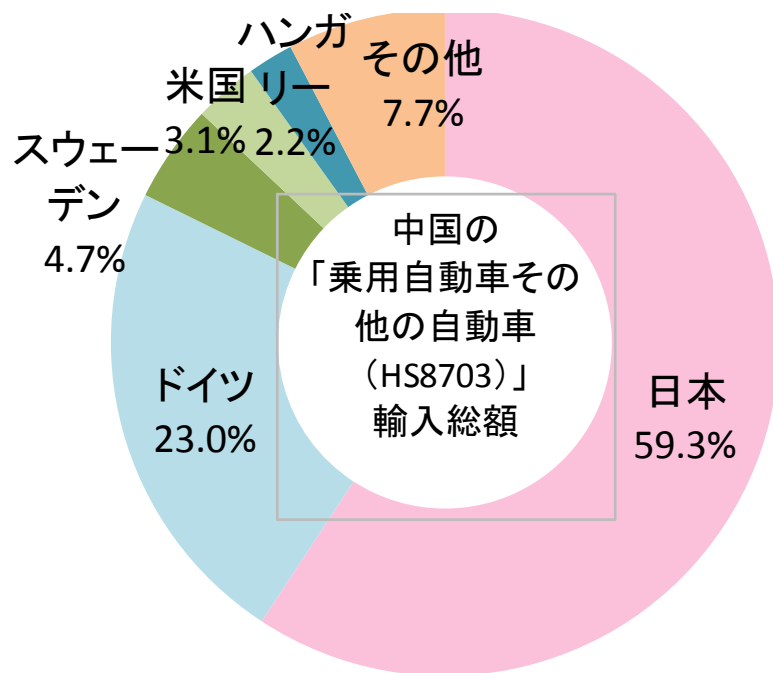
- 中国ードイツ間の貿易収支は、中国の輸出超から、世界経済危機前後を境に、中国の輸入超に転じている。



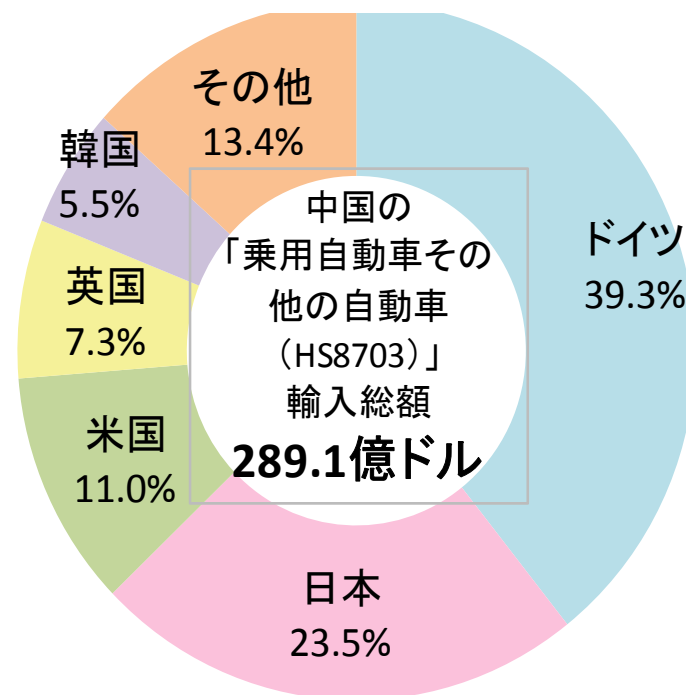
# 中国の乗用車輸入相手の変化

## ～2000年と2010年の比較～

- 日本の存在感が急減に減少し、ドイツの存在感が増加



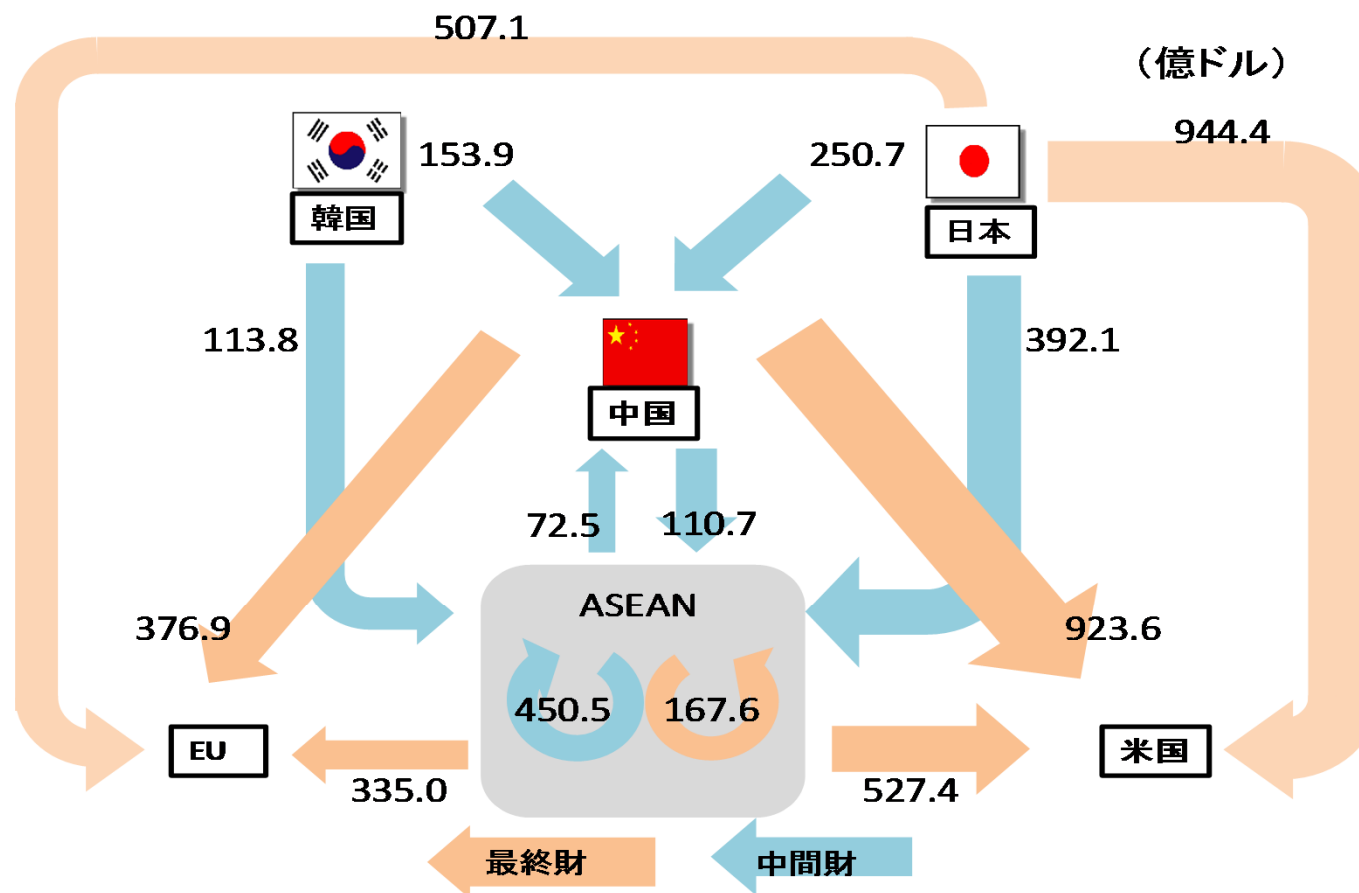
資料: World Trade Atlas から作成。



資料: World Trade Atlas から作成。

# 1990年の東アジアの貿易構造

- ASEAN、中国、そして日本がそれぞれ最終工程の役割を担う  
→3つの出口構造



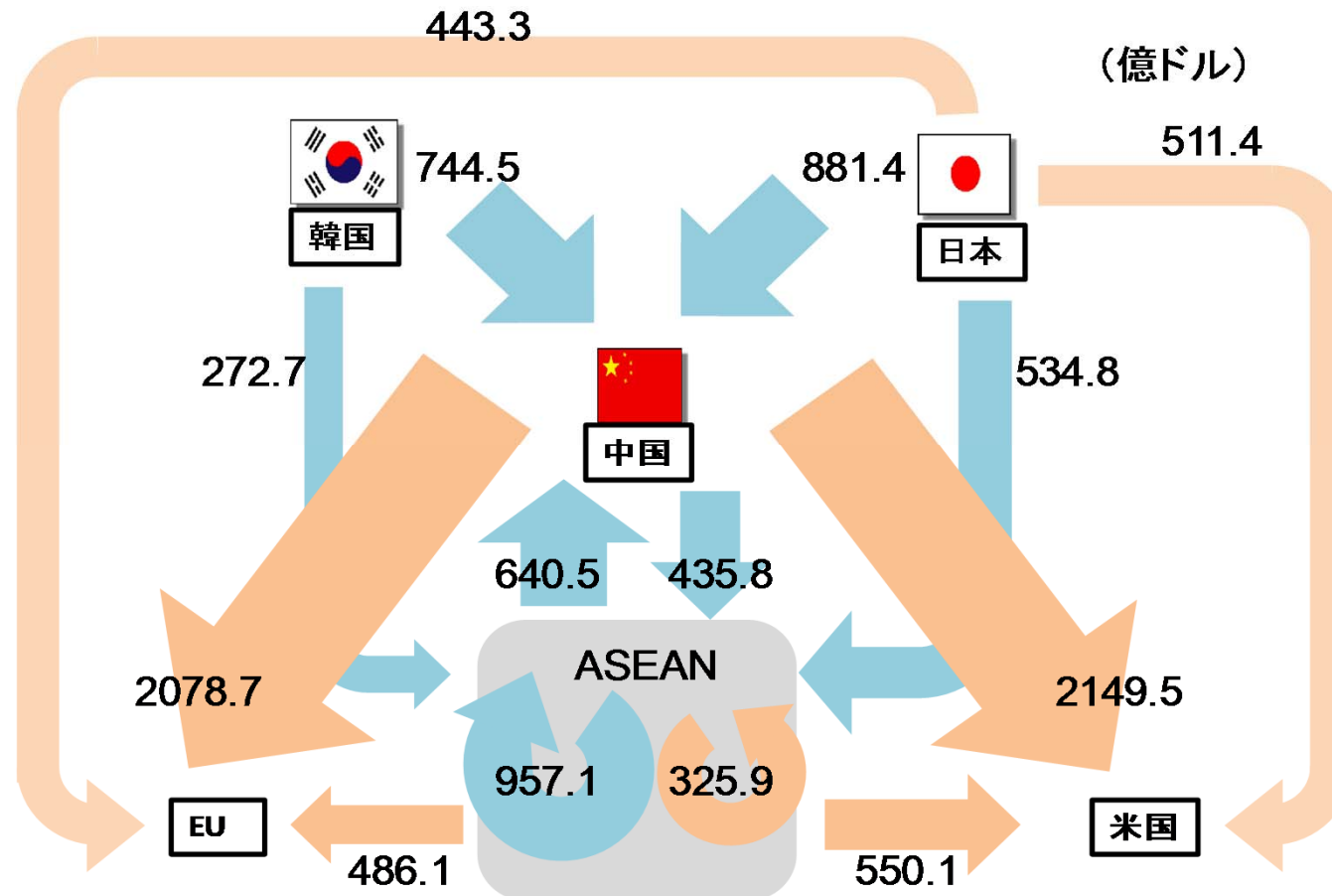
資料: RIETI「RIETI-TID2010」から作成。

# 2009年の東アジアの貿易構造

- 域内取引と中国との関係を強化するASEAN

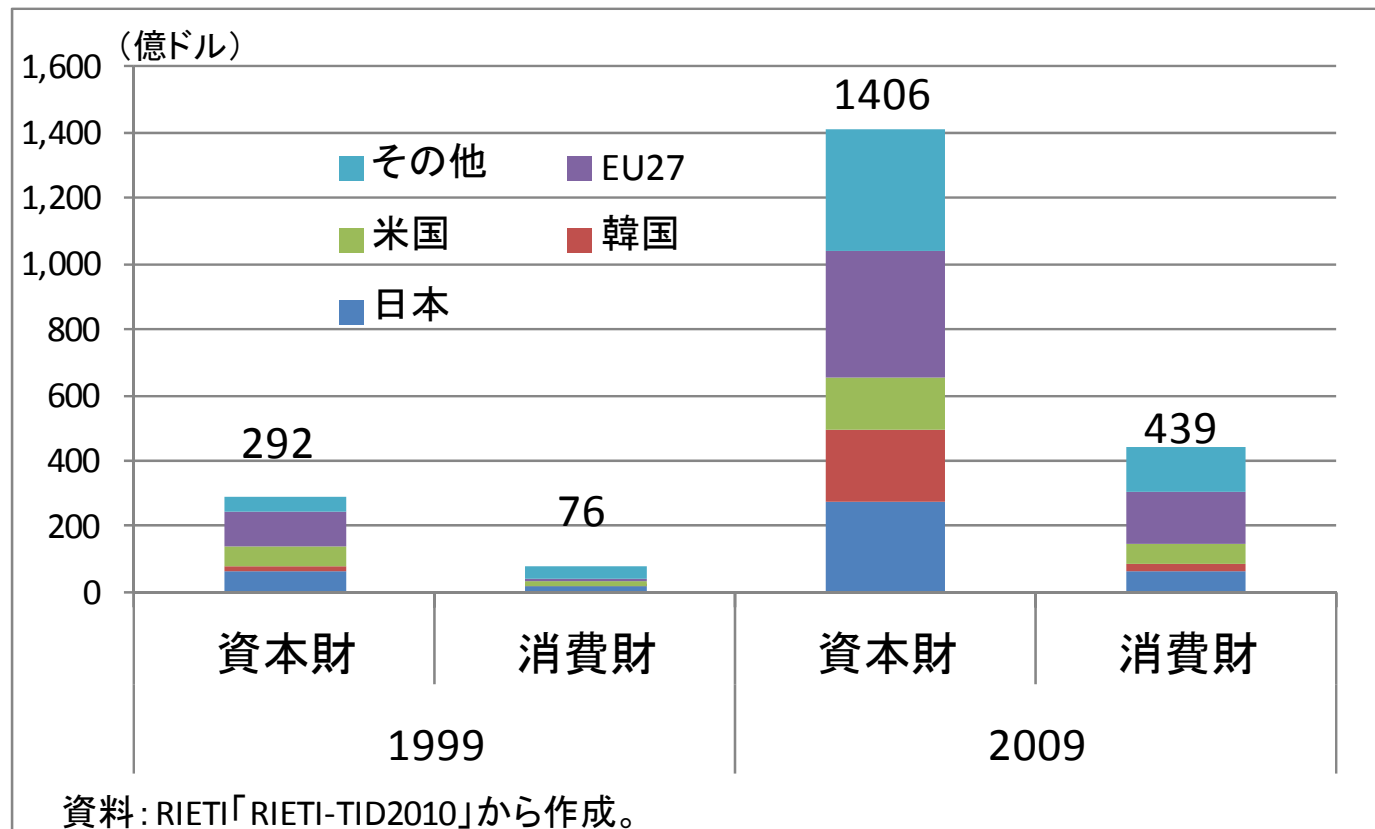
→2011年7月11日 人民網

ASEAN 日本を抜き中国の3番目の貿易相手先に(人民網)



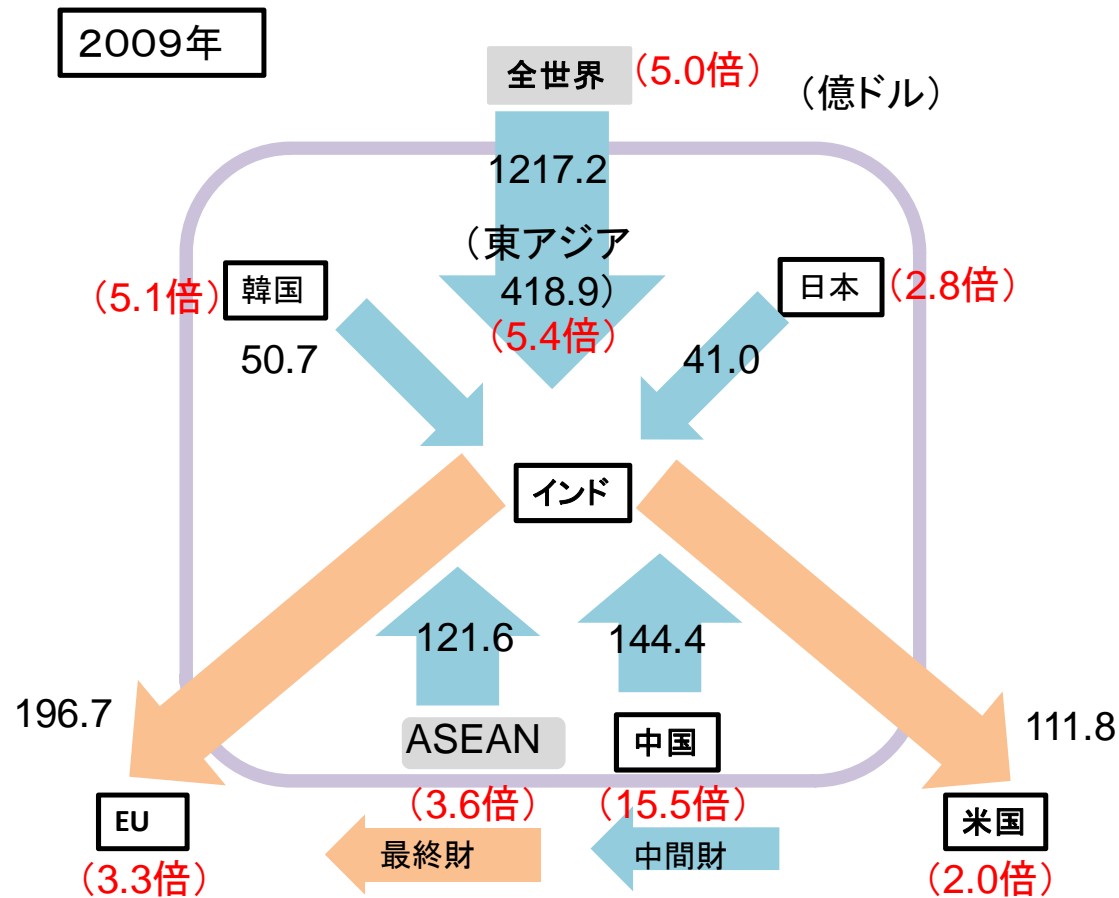
## 中国への最終財輸出の内訳(資本財と消費財)

- 中国の輸入では、資本財の割合が大。建設需要や設備投資需要に由来する生産要素的なものが多いと考えられる。
- つまり、各国・地域から中国への最終財輸出の増加は、中国が巨大な「世界の需要地」となりつつあることは示しつつも、輸出国が巨大な中国「消費」市場を輸出により獲得しつつあるとは、一概には言えないことに注意が必要である。



# インドを中心とした中間財・最終財貿易の動向

東アジアからインドへの中間財輸出と、インドから欧米への最終財輸出はともに急拡大しており、インドが新たな中間財組立・輸出拠点の一つとして東アジアネットワークに組み込まれてきている可能性が考えられる



備考: 括弧内は1999年比の倍率。  
資料: RIETI「RIETI-TID2010」から作成。

# 今後の貿易構造を見る視点

- 日本は、誰によって「代替」されようとしているのか？  
～震災は、この代替を促進するのか？？？～
- 「ナンバー3」としての日本は、今後、どのような通商貿易関係を構築していくのか？



# 震災後の我が国の主な品目・仕向先別の輸出動向

仕向先の国・地域別にみると、震災後の落ち込みが特に大きいのは、米国及びNIEs・ASEAN。

米国への乗用車輸出の落ち込みは底打ち感があるが、自動車部品を含め依然として全体の落ち込み幅は大きい。

一方、NIEs・ASEANへの電気機器の輸出は、震災後一貫して減少しており、減少幅も徐々に大きくなっている。他地域では好調な一般機械の輸出まで減少している。

これらが震災の影響による要因が大きいのか、各国の景気動向等による需要要因が大きいのか、今後要注目。

○2011年3月

品目	世界		米国		EU		中国		NIEs		ASEAN		(参考)アジア全体	
	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)
全体	-2.3%	-2.3%	-3.5%	-3.5%	4.2%	4.2%	3.7%	3.7%	-5.2%	-5.2%	-4.1%	-4.1%	-0.1%	-0.1%
輸送用機器	-4.5%	-19.1%	-6.6%	-18.4%	-0.5%	-2.4%	-2.2%	-19.7%	-2.3%	-34.1%	-4.6%	-31.5%	-1.9%	-20.0%
（うち、乗用車）	-3.3%	-27.3%	-7.7%	-28.7%	-2.2%	-17.0%	-1.2%	-27.0%	-0.7%	-47.5%	-0.4%	-18.6%	-0.6%	-22.3%
（うち、自動車部品）	-0.2%	-5.0%	0.1%	1.7%	0.6%	11.6%	-0.9%	-16.3%	-0.3%	-20.9%	-0.1%	-2.8%	-0.4%	-11.1%
電気機器	-1.1%	-6.1%	0.1%	0.8%	-1.0%	-4.7%	-0.7%	-2.9%	-2.9%	-12.6%	-2.1%	-9.5%	-1.6%	-7.0%
（うち、IC(集積回路)）	-0.3%	-8.6%	-0.1%	-6.1%	-0.2%	-9.9%	0.7%	13.9%	-1.4%	-16.9%	-1.4%	-21.5%	-0.5%	-8.4%
一般機械	1.4%	7.0%	2.6%	12.6%	3.6%	14.6%	4.6%	19.9%	-2.4%	-13.0%	-0.6%	-3.0%	0.8%	4.0%

○2011年4月

品目	世界		米国		EU		中国		NIEs		ASEAN		(参考)アジア全体	
	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)
全体	-12.4%	-12.4%	-23.3%	-23.3%	-10.7%	-10.7%	-6.8%	-6.8%	-8.7%	-8.7%	-5.3%	-5.3%	-6.6%	-6.6%
輸送用機器	-9.8%	-43.2%	-19.6%	-54.5%	-12.2%	-48.6%	-4.1%	-40.5%	-0.8%	-17.0%	-3.8%	-27.1%	-2.5%	-28.1%
（うち、乗用車）	-7.7%	-67.9%	-19.5%	-74.1%	-10.4%	-69.6%	-2.5%	-71.2%	-1.0%	-78.4%	-0.7%	-30.8%	-1.3%	-53.3%
（うち、自動車部品）	-0.7%	-14.8%	-0.4%	-6.3%	-0.5%	-8.9%	-1.2%	-21.5%	-0.2%	-13.5%	-1.1%	-20.7%	-0.8%	-19.0%
電気機器	-2.3%	-12.5%	-3.0%	-17.6%	-1.2%	-6.2%	-2.5%	-11.0%	-3.8%	-16.4%	-3.0%	-13.4%	-2.9%	-12.7%
（うち、IC(集積回路)）	-1.0%	-24.0%	-1.0%	-41.3%	-0.1%	-8.3%	-0.4%	-8.1%	-2.5%	-30.2%	-1.9%	-29.2%	-1.4%	-22.8%
一般機械	0.3%	1.5%	0.7%	3.4%	0.6%	2.6%	4.3%	19.7%	-3.2%	-17.0%	-0.1%	-0.6%	0.2%	0.9%

○2011年5月

品目	世界		米国		EU		中国		NIEs		ASEAN		(参考)アジア全体	
	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)	寄与度 (%ポイント)	前年 同月比 (%)
全体	-10.3%	-10.3%	-14.6%	-14.6%	-8.8%	-8.8%	-8.1%	-8.1%	-8.8%	-8.8%	-9.6%	-9.6%	-8.7%	-8.7%
輸送用機器	-5.5%	-26.6%	-11.5%	-33.0%	-4.6%	-23.0%	-3.1%	-33.4%	-1.0%	-26.2%	-1.8%	-18.2%	-1.9%	-24.8%
（うち、乗用車）	-4.4%	-41.3%	-12.0%	-46.2%	-4.3%	-35.8%	-1.7%	-46.5%	-0.5%	-48.7%	-0.5%	-27.6%	-0.8%	-36.1%
（うち、自動車部品）	-0.8%	-18.5%	-1.4%	-22.5%	0.1%	3.0%	-1.5%	-31.4%	-0.1%	-5.8%	-1.4%	-27.6%	-0.9%	-25.8%
電気機器	-3.2%	-16.6%	-2.3%	-14.0%	-1.5%	-7.4%	-2.8%	-12.2%	-5.5%	-22.4%	-4.7%	-20.8%	-4.2%	-18.2%
（うち、IC(集積回路)）	-1.0%	-23.2%	-0.4%	-23.0%	-0.5%	-29.6%	-0.2%	-2.8%	-2.8%	-32.1%	-2.0%	-28.9%	-1.5%	-22.7%
一般機械	0.7%	3.7%	1.5%	7.1%	0.3%	1.4%	1.7%	7.9%	-0.6%	-3.8%	-2.6%	-11.9%	-0.2%	-1.2%

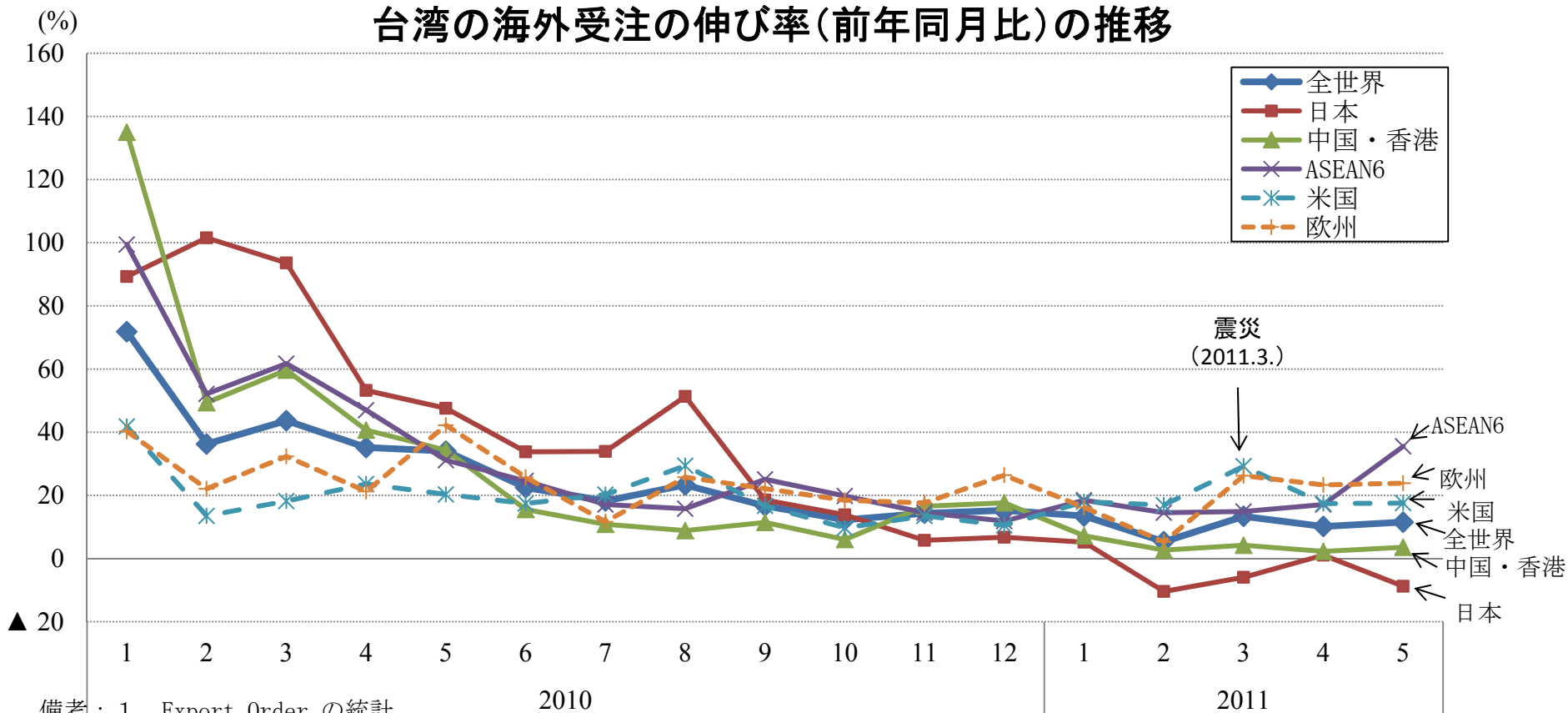
備考：数値は2011年3月・4月は確報値、5月は速報値。網掛け部分は、寄与度・前年同月比それぞれで落ち込みの大きい上位3地域（世界・アジア全体を除く）。落ち込みの大きい数値の数（国名の右に表示）が最も多い国・地域名を濃赤色、2番目に多い国・地域名を薄赤色としている。

資料：財務省「貿易統計」から作成。

# 好調な台湾への海外受注

- 台湾5月の海外受注は、前年同月比11.53%増の376億ドル(約3兆円)となり、3ヶ月連続の2桁増となった。
- この内、日本以外の国からの受注が伸びているのは事実。しかし、
  - ・中国： 低い伸びが続いており、受注を大きく伸ばしたという事実は見られない。
  - ・米国： 3月に一時的に伸び率が上昇したが、翌月から元に戻っている。
  - ・ASEAN6： 5月に伸び率が大きく上昇している(17.1%→35.5%)。
 ことから、台湾による日本輸出の大幅な「代替」が生じているとまでは言えないのではないか。

## 台湾の海外受注の伸び率(前年同月比)の推移

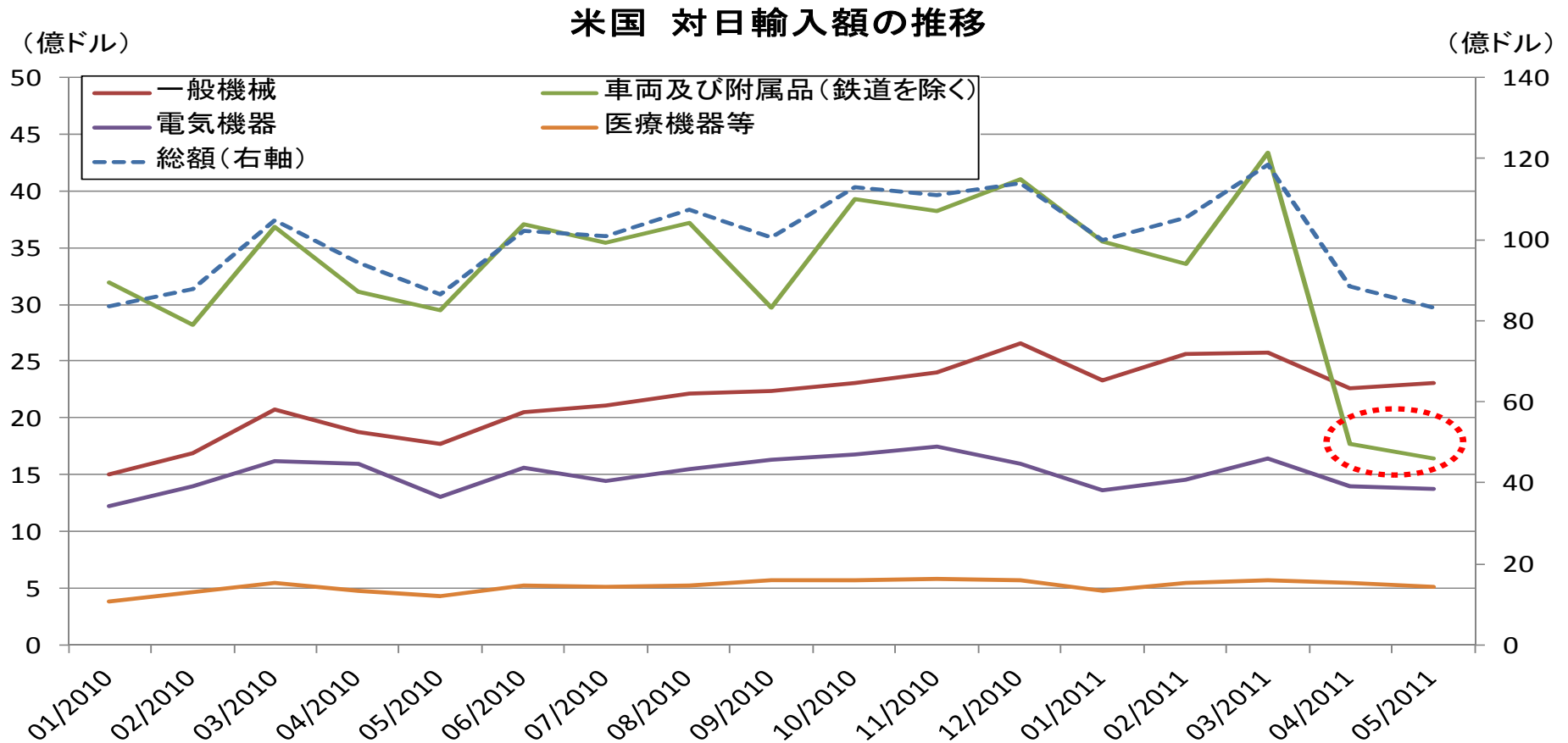


備考：1. Export Order の統計。

2. 1～2月の統計が大きく変動しているのは、春節に伴う営業日変動の影響が出ている可能性がある。

# 米国の対日輸入品目の推移

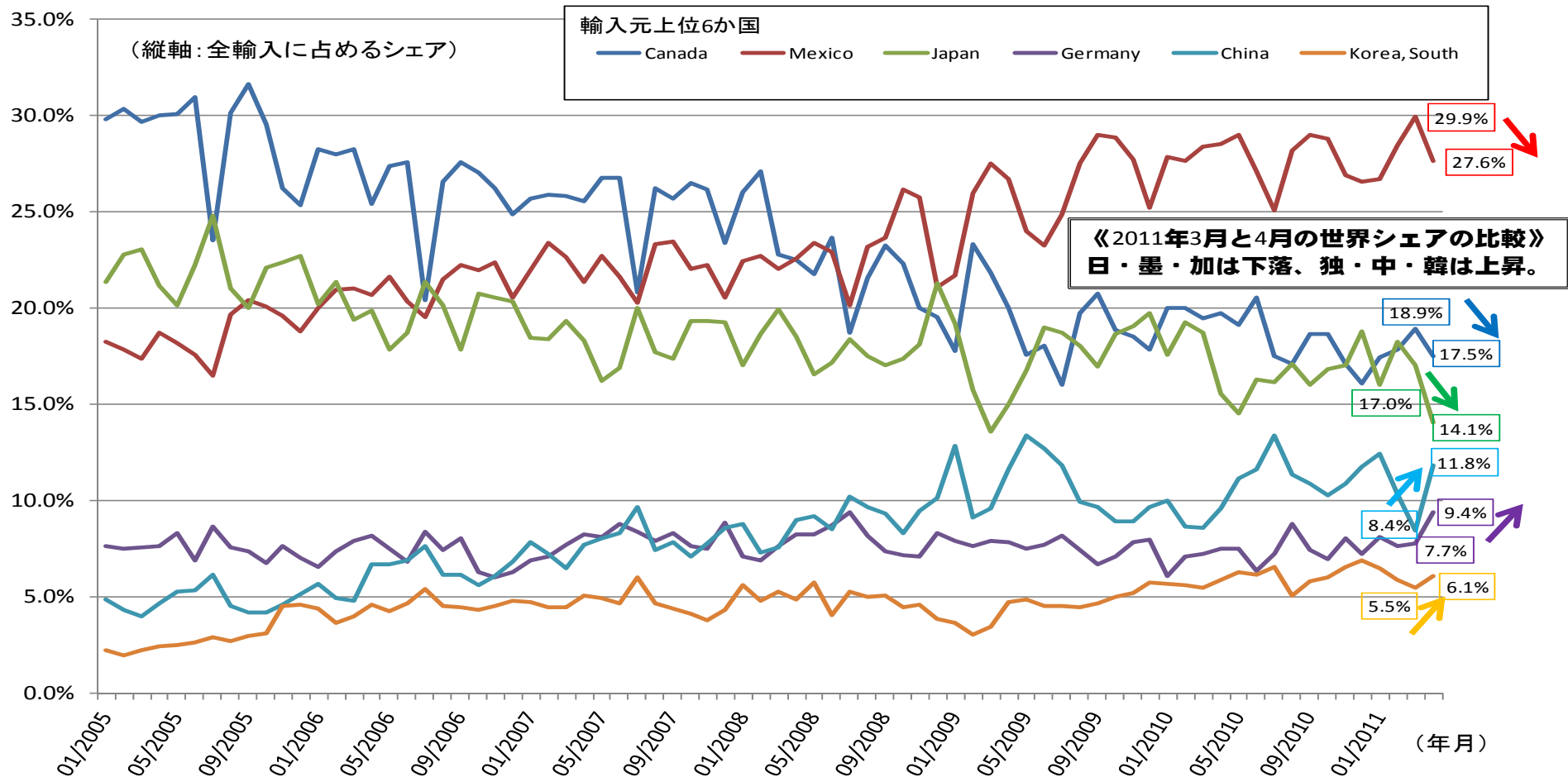
アメリカの日本からの輸入上品は、圧倒的な1位が「車両及び付属品」(自動車関連)で、離れて一般機械、電気機械が続くというのが、長期的な傾向。  
 しかし、4月は自動車関連の急激な低下により、一般機械の輸入額を下回り、品目順位が入れ替わっている。



備考: サービスを除く、通関ベース。季節未調整。  
 資料: GTAから作成。

# 米国の自動車部品の輸入動向

- 最近の米国の自動車部品の輸入先上位3か国は、メキシコ・カナダ・日本であるが、4月の各国シェアはいずれも減少。震災の影響が、墨・加経由でも出ている可能性がある。
- 一方、それらの次に多い中国・ドイツ・韓国からの輸入はいずれも、シェアを上昇させており、一時的に部品の代替が行われた可能性もある。



資料: GTI社「Global Trade Atlas」から作成。自動車部品のHSコードは、我が国貿易統計での自動車部品の概況品と同様に8707及び8708とした。

# グレートゲームの時代の「ナンバー3」 たるドイツと日本

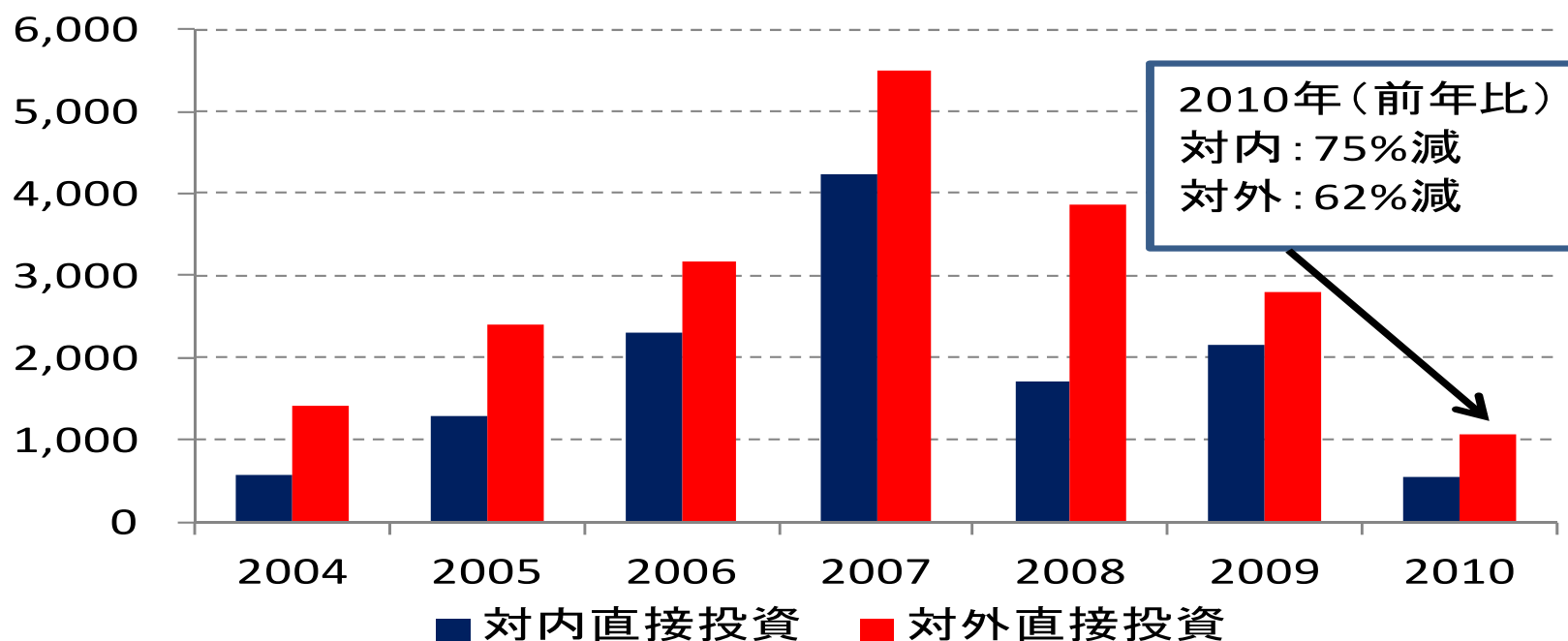


## 欧州への2010年の直接投資は激減

- 欧州企業の設備投資意欲そのものは旺盛である一方、域外への投資も減少傾向にあり、EUの内向き志向が見て取れる。最大の投資国はルクセンブルク（383億ユーロ）で、やはり金融面での投資が主体。

### EUの対内・対外直接投資の推移（対域外）

（億ユーロ）



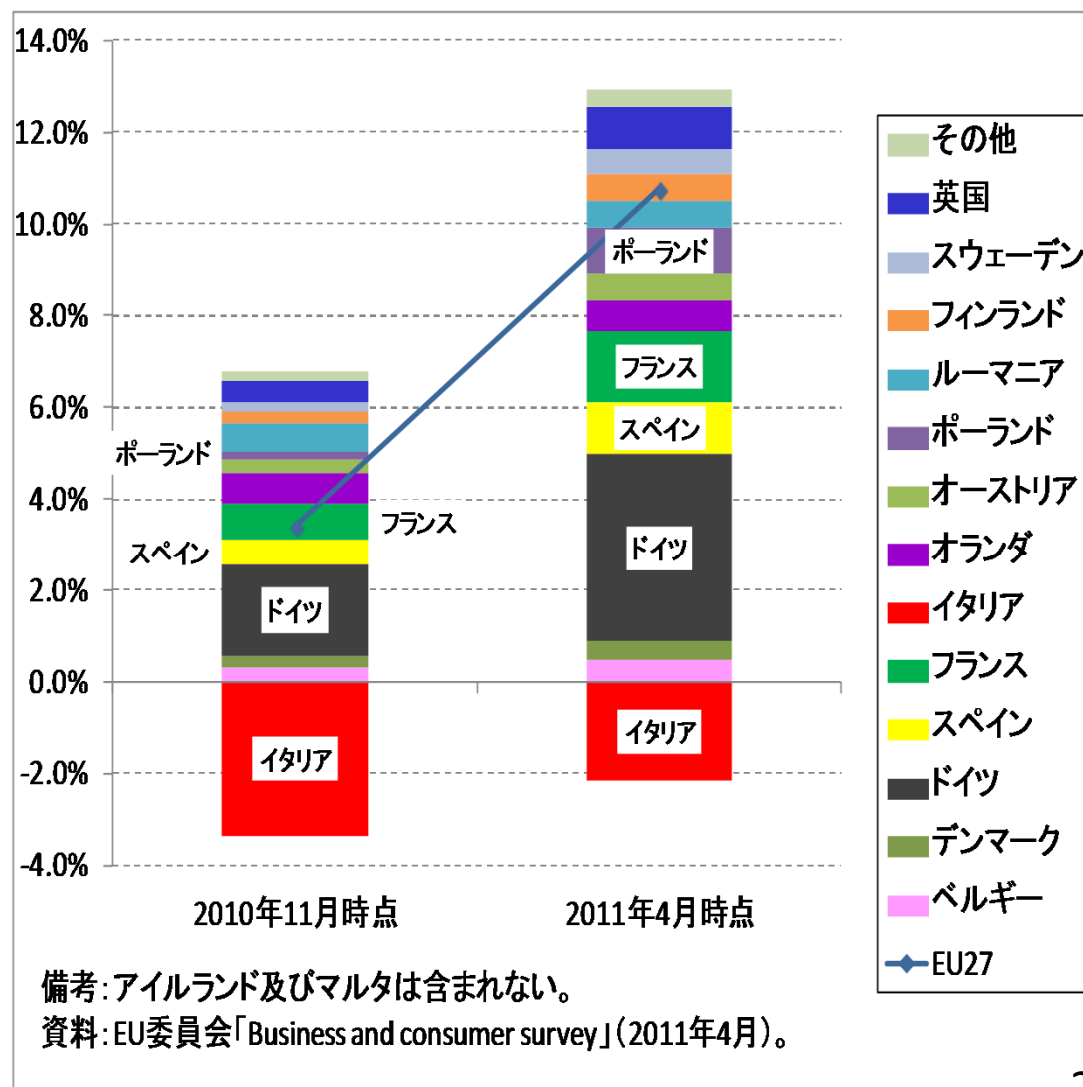
備考：2010年は速報値。  
資料：Eurostatから作成。

# 対内直接投資とは異なる好調な欧州設備投資動向

欧州企業の2011年の設備投資計画(2011年4月時点)

	(前年比、%)	
	2010年 11月時点	2011年 4月時点
<b>EU</b>	3.7	11.3
<b>ユーロ圏</b>	2.1	9.8
ベルギー	14.5	23.5
ブルガリア	19.0	-34.1
チェコ	—	5.4
デンマーク	12.6	21.4
ドイツ	6.3	12.9
エストニア	98.0	101.6
ギリシャ	-10.6	16.6
スペイン	9.3	20.7
フランス	6.5	12.8
イタリア	-28.0	-18.3
キプロス	16.9	-5.1
ラトビア	-2.1	6.7
リトアニア	32.6	43.8
ルクセンブ	-34.6	7.0
ハンガリー	1.5	7.6
オランダ	22.4	23.5
オーストリ	9.3	17.1
ポーランド	5.7	33.0
ポルトガル	-8.6	-10.7
ルーマニア	75.3	72.3
スロベニア	20.4	15.5
スロバキア	10.2	7.6
フィンランド	9.1	21.5
スウェーデ	5.5	16.1
英国	3.7	7.1

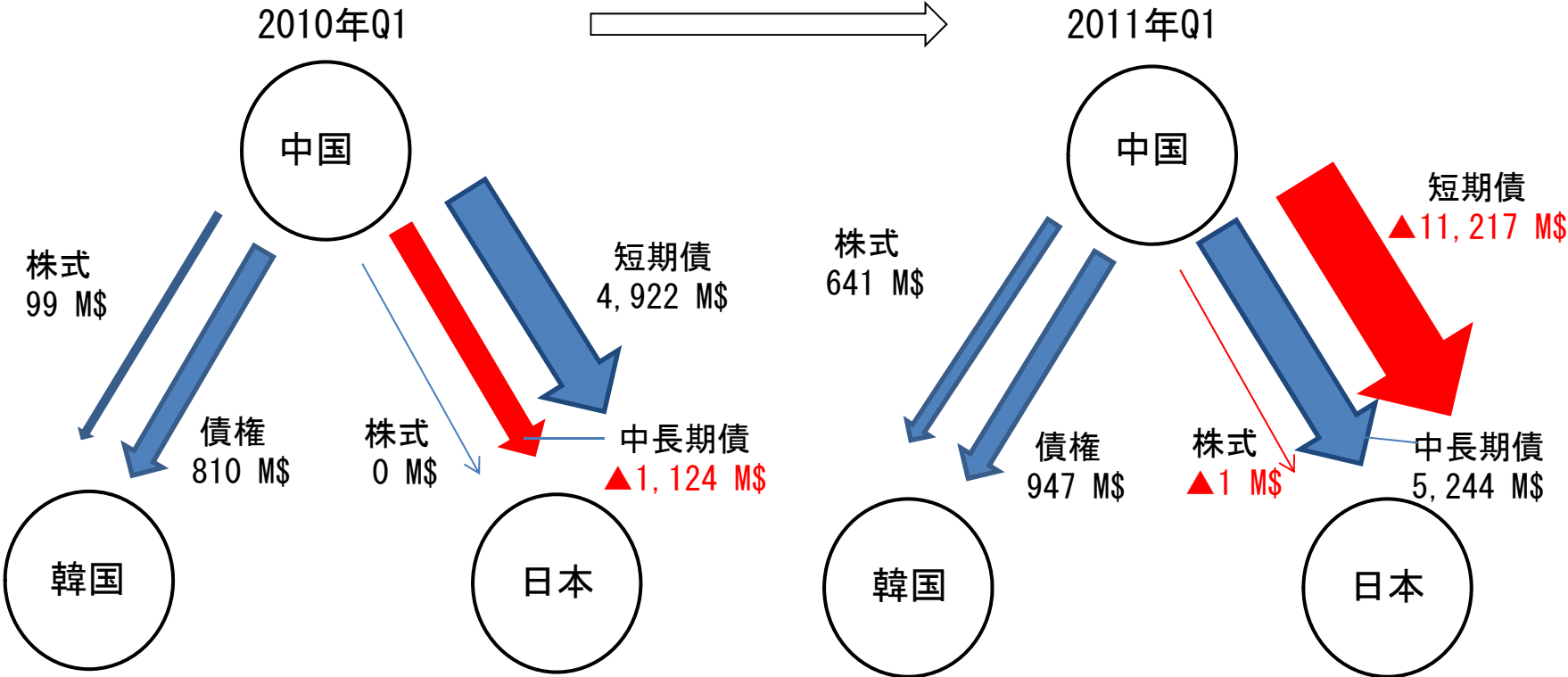
設備投資計画国別寄与度



# 中国から日韓への証券投資の第1四半期の動向

本年と昨年(2010年)の第1四半期の中国からの証券投資の日韓比較を行うと、

- ・韓国への株式買越額は大きく増加しているが、そもそも日本への株式投資は少ない。
- ・対日債券投資は、短期から中長期に明らかにシフトし、短期債は売越しとなったといった特色がみられる。



備考：1. 赤字は対内証券投資のマイナス（資本の国外流出）を示す。  
 2. 韓国と日本の統計の正確な比較は困難であるが便宜的に対比した。韓国統計では、債権に短期・中長期の区別がなく、韓国国内で発行された債券のネットの売買額。なお、両国とも、日本円、香港ウォン表示の投資額をドル換算した。  
 資料：韓国金融監督院 (Financial Supervisory Service) プレスリリース 「Foreign Investments in Domestic Securities in June 2011」、財務省Webサイト、CEIC Database から作成。



# 日本からみるEPAのグローバルな枠組み

主要な貿易相手国と、自由化レベルが高く広範な分野を対象に経済連携を推進し、ビジネス環境の改善を図る

## 日中韓FTA

2011年5月22日 第4回日中韓サミット

産官学共同研究を本年中に終了させ、その後フォローアップを行うべく、同共同研究を加速化することを決定。



(関連日程)

2011年6月 第5回日中韓FTA  
27-28日 産官学同研究(日本)

2012年 日中韓サミット

## 日EU・EIA

2011年5月28日 日EU定期首脳協議

交渉のためのプロセスを開始し、まずは交渉の大枠を定める「スコーピング」の作業を早期に実施することで合意。



(関連日程)

2011年11月 G20 サミット

(参考)EUが指摘している非関税障壁の例

- 自動車の国際基準の採用の拡大
- 化学品に関する規制の国際調和の推進
- 電気機器・無線機器等の自己確認の拡大
- 任意規格(JIS等)の国際基準との整合性等

## TPP

2011年5月18日 政策推進指針  
TPP交渉参加判断の時期については、総合的に検討していく。

2011年5月26日 日米首脳会談  
改めて総合的に検討し、できるだけ早期に判断したい。(菅総理発言)



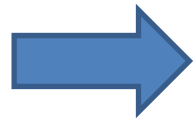
(関連日程)

2011年9月 総理訪米予定  
2011年11月 APEC(ハワイ):

既に合意された事項を後から参加し修正することは困難。一方、11月にどこまで合意するかに関わらず、交渉の余地は回を追うごとに縮小

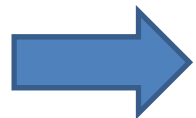
よもやま話は、これくらいにしまして引き続き、

## 1 「1990年以降の20年間に、我が国で生じた経済構造の変化を、産業連関分析を使って」



日本の経済構造を巨視的に見ている。特に、産業相互間の関連が重要な帰結をもたらす点を導き出した考察を見ていただきたい。

## 2 「東日本大震災から垣間見える我が国と世界の通商・経済関係」



日本産業の内部構造を微視的に見ている。そこから、日本と世界の「繋がり」をあぶり出す考察ができたかどうかを見ていただきたい。